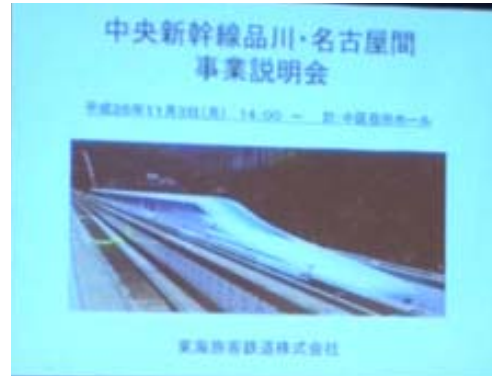


「リニア」事業説明会

写真にある「中央新幹線品川・名古屋間事業説明会」に行ってみた。場所は栄の中区役所ホールである。資料は『環境影響評価書(愛知県)のあらまし』であり、パワーポイントにより 50 分余りの説明があり、質疑に移った。私の記憶では 7 人が質問した。はっきりしない回答が多く、時間ばかり過ぎていった。質問の多くは、リニアの必要性・採算性、災害時を含めた安全性、名古屋城三の丸の文化財や環境への影響、それに説明会の資料と周知方法などであった。



大きな会場であるが、休日午後にもかかわらず、参加者は少なく閑散としていた。中区の女性が説明会の周知方法について質問したが、JR 東海のホームページで案内し、区役所などに要請したとの回答であった。私も小さく新聞に掲載された「案内」をたまたま見て説明会を知った。事業者として、積極的に説明していく感じではなかった。「事業認可」を受けたので、足早に開催しているようだ。世紀の大事業を広く周知して、住民の理解を得ていく姿勢に欠けているのではないか。

今回の事業説明会に出かけたのは、どのように事業者である JR 東海が説明するのか、地元住民の反応を知りたかったからだ。通りいっぺんの説明を聞き、質疑に耳を傾けていると、昔を思い出して「つい」手をあげてしまった。昔というのは、中部空港や愛知万博の説明会のことである。常滑や瀬戸で説明会に参加して、いろいろ質問・意見したことが思い起こされる。当時は参加者も多く、会場は緊張感に満ちていた。

10月21日のレポート「リニア始動」において、必要性、環境負荷、安全性、採算性の4点について問題を提起した。質疑を聴いていて、とくに「リニアが新幹線の代替としてふさわしいのか」にしばり質問することにしたが、残念ながら指名されなかった。資料には環境性能・消費電力として、「超電動リニアは、同じ速度域の輸送機関である航空機と比較して、CO₂の排出量が少なく、優れた環境性能を有します。超伝導リニアの消費電力は、電力会社の供給力に比べて十分小さいものです。東海道新幹線と同様に、省エネの取り組みを継続していきます」とある。参考として、H26 夏季における電力各社(東電・中電・関電)の供給力見込みが記載されている。

消費電力は現在の東海道新幹線との比較を示すべし。前のレポートにも書いたように、リニアは列車1本当り新幹線の3倍の電力を消費する。リニアは省エネに逆行し、環境面からも持続可能ではなく、東海道新幹線の「代替」としてふさわしいのか。説明会に参加して、「はじめにリニアありき」でよいのか、あらためて考えさせられた。

(2014年11月6日)